

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902454		
法人名	有限会社シャイニング		
事業所名	グループホーム「ファミリー」		
所在地	北海道旭川市永山1条11丁目2-38 電話0166-48-8100		
自己評価作成日	平成22年10月23日	評価結果市町村受理日	平成22年11月22日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902454&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【力をいれている点】利用者個々の人権を尊重し、毎日の生活に生きがいを見出し、その人らしい人生を送ることが出来るよう最大限サポートしている。
 【アピールしたい点】子育て支援のボランティア事業を実施し、子供たちや地域の方々との交流の場を広げ、利用者に笑顔と楽しみを多く持っていただき、ゆったりとした気持ちで日常生活を送ることが出来る環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地熱暖房ヒートポンプを導入し、省エネ・再生資源の活用に取り組んでいる1ユニットのグループホームです。また、若年性認知症利用者の受け入れや地域の高齢者の介護・健康相談の実施、福祉専門学校生や高校生の実習の受け入れ等ホームの持つ機能の地域への還元に取り組んでいます。子育て支援センターを併設し、子供達とその家族との日常的な支援やヨガ教室、絵画教室等の開催で地域に密着した活動が継続的に行われています。また、地域との交流では、散歩や地域での買い物、「夏祭り」開催や和太鼓のボランティアの受け入れ等日常生活を通じて交流の促進が行われています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	子育て支援のボランティア事業を実施しながら地域町内会との交流の場を広げること盛り込み全員で取り組んでいる。	事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼時やミーティングを通じて話し合い、理念を共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や買い物、町内会との繋がりを維持している。又、ホーム主催の「夏祭り」では町内会の人々に参加を呼び掛け、交流に取り組んでいる。	地域の高齢者の介護・健康相談の実施や散歩、地域での買い物、「夏祭り」開催や和太鼓のボランティアの受け入れ等日常生活を通じて交流の促進が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の介護、健康相談等気軽に立ち寄り頂けるよう、運営推進会議等での話し合いが持たれている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、報告を行って参加者の方々より意見を頂き、日々のサービス向上への参考としている。	運営推進会議は、年6回を目安に開催され、地熱の利用や夏祭り開催等その目的や効果、地域との協力体制について具体的に話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者及び地域包括センターとの連携、研修等にも積極的に参加を努めている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が中心となり、職員会議にて研修会を開き、身体拘束ゼロ作戦の実践に取り組んでいる。	虐待防止委員会で、身体拘束廃止についても管理者及び職員の認識の共有に取り組んでいる。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の中で出された意見を伝達、周知徹底を図り、継続教育に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の暮らしの中で、必要性があれば家族との相談が出来るように支援している。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書や重要事項等の説明は、時間をかけ行っている。又、不安・疑問にその都度対応し、理解を得るよう努めている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時には、意見・苦情等を言いやすい雰囲気作りをし、又運営に反映する取り組みが行われている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように取り組んでいる。また、市町村等の苦情・相談窓口の掲示をしている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見要望等の提案を図り、反映に努めている。	代表者や管理者は、職員の意見や要望、提案を聞くようミーティング等で、その機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力しています。今回は介護処遇改善交付金を100%貰えるよう手続きしました。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	身体拘束廃止の勉強会、外部研修も積極的に参加を促しています。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・ケアマネージャーは、交流が出来ていてサービスの向上に努めています。今後、職員の交流の機会を作ります。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前には、必ず御本人と会い直接お話を聴き、身心生活状況の把握を行い、安心して入居頂ける様努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前には、何度か話し合いの場を設け、ご家族の要望等を理解し、対応可能の有無をしっかりと伝え、より良い関係に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めをしっかりと行い、医療や地域包括支援センターとの連携も行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを尊重し、生活の知恵や食事に関すること等協働しながら家族の様に支え合う関係が築けている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、ご本人の様子や健康状態など伝え、又身の回り品の相談や購入のお願いなどによって協力関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年お付き合いのある友人からの電話・訪問があり又、家族の了解を得てこちらから電話等連絡するなど支援に努めている。	夏祭り行事や敬老会、盆踊り等を通じて馴染みの人との交流や花見、イチゴ狩り、日常的な散歩や買い物等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の見守りを重視し、仲間割れが起きた時には、職員が中に入り良好な関係に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例は無いが、必要に応じて取り組んでいきたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にご本人との面談を持ち、思いの把握に努め、時にはご家族のご協力を得ている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、困難な場合には、家族等と話し合いながら職員間で情報の共有をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前よりご本人・ご家族よりお話を聴き、必要時には、これまでの利用事業所担当者との連携も取っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活アセスメントを大切に、定期的にモニタリングを行い、把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族より定期的になぜケアに対する意向を聞いている。各医療機関医師からも日常生活の意見等聞き、全職員とのカンファレンスを行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を大切に、情報の共有を行い、チームケアに取り組み、変化が生じた時には速やかに対応している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のご家族も含め、全家族に手紙を写真付きで発送し、買い物代行もしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防署、民生委員や地域の民生委員、町内会長等々の協力も得ている。学生や地域ボランティアに行事の協力を得ている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医院ではあるが、専門医については、主治医から紹介状を得て対応している。又、ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医を利用し、個々に応じた受診が出来ている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や常勤の看護師の連携で適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、日々の健康管理を行っている。夜間も看護師と連絡をとれる体制が出来ている。又、協力医療機関とも相談や協力を得られている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関や家族と情報交換を充分に行い、退院計画を具体的に立案した支援に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、医療・介護・家族との連携し、職員間で話し合いが出来ている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携を取り、事業所ができることを十分に家族に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命やAED講習を受講している。入居者様の急変に備えて、看護師から職員に伝えられている。職員会議等で応急手当の実習会を実施し職員のレベルアップを図っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時に全ての職員が速やかに対応が出来るように火災避難訓練が年2回実施され、消火設備も定期的に点検が実施されている。	スプリンクラーの設置が完了している。また、年2回避難訓練を実施し、設備の定期点検も行われている。	緊急時の一時避難場所の確保やスプリンクラー作動時の課題について、さらに検討されることを期待します。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人の人間として尊厳を重視し、希望や意向を尊重した取り組みがされている。接遇に関する研修に参加し職員が意識した支援に努めている。	虐待防止委員会や身体拘束ゼロ作戦を通じて、接遇(誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないよう)について管理者、職員間で対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望は日頃より対話を多く持ち汲み取るように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の体調や残存能力に配慮し日々のペース配分に柔軟な支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服装を選択出来、お化粧品もされるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう畑で野菜を収穫して、又健康状態や病状に応じて配慮した取り組みが行われ、又共同生活を意識した支援に努めている。	畑での野菜の収穫や、一人ひとりの力を活かしながら調理や食事の準備等楽しんで行えるよう努めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	具体的な水分・食事摂取が記録され、栄養バランスやカロリーについてもおおよそ把握され、又医療受診につなぎ体調管理に努めている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの実施、自立度に応じた歯磨きや見守り支援に努めている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄支援の中で時間を見て、声掛けや誘導の支援に努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように自立への支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下痢や食物の工夫による排泄を促している。又、水分管理を徹底し、量の確保をし、身体を動かす機会を作っている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、決めているが利用者の希望やタイミングに応じ、入浴が楽しめるよう支援に努めている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて、入浴が楽しめるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に応じている。又日中は、適度な運動と早寝早起きのリズムを整えるよう支援に努めている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルし、又内服薬の変更時は申し送りを徹底し、全職員が把握出来るようにしている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の見守りを重視し、孤立や仲間割れが起きた時には、職員が中に入り良好な関係に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調を考慮しながら、晴天時には出来るだけ散歩の支援を行っている。又、花見やイチゴ狩り等、季節感を味わってもらう外出支援を行っている。	一人ひとりのその日の希望にそって、近隣への散歩やスーパーでの買い物等日常生活を通じて戸外に出かけられるように支援している。また、夏祭りや敬老会参加、畑の手入れや紅葉見物等が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とも相談の上、預り金の中から状況や希望に応じて金銭所持を支援している。買い物の機会を作り、使用の支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て、夜20時まで自由に電話の利用を行える。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や話し声が大きくなりすぎないように配慮している。日差しが強い時には、カーテンを使用したり注意を払っている。談話室には、一部を利用して居心地の良い空間を設置し、行事などの写真を掲載している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、リビングや廊下の壁には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示等が行われ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は複数あり、個々に座ったり、ソファに横になるなど自由に共有空間を利用している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた物を持参して頂き、安心感を持てるように努めている。又、家族の写真が飾られ一人ひとりの思いが伝わる作りとなっている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等を持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の状態を把握し、又、負担がかからない自立を尊重した支援に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ファミリー

作成日：平成22年10月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合うよう対応するも感情が入ると対応が遅れることがある。	利用者同士の交友関係を円滑にする。	利用者の会話の中には、常に傍に職員がいるような環境作りに努める。	12ヶ月
2	28	柔軟な支援を心がけているが、業務や人為的な問題により、その時々に必要な対応が遅れることがある。	必要なニーズや支援において、迅速に取り組み、予想されるものについては計画を立てて行う。	その時に必要な支援やニーズに対し、どの支援が必要かを見極める職員の資質の向上を図り、職員間の連携を強化する。買い物等の決定しているものは、事前に計画を立てる。	12ヶ月
3	35	年2回避難訓練を行っているが、勤務の関係上職員全員が参加出来ていない。	実施することにより、入居者が避難出来る方法を理解でき、職員も役割を確認出来る。	全ての職員が避難訓練に参加し、夜勤帯の時間でも対応できるように内部研修等でも実際に通報等のシュミレーションを行う。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。